

## ウイーン訪問記

H. Y.

年末（2022年）にウイーンに行って来ました!!11月14日から11月26日の個人旅行でした。こんな時期に何故と思われるでしょうが、理由を説明いたします。

ウイーンが大好きな夫とツアーで中欧旅行(プラハ、ブタペスト、ウイーン)に出かけたのがコロナ騒ぎ直前の12月。年齢のせいか、スケジュールで動くのが大の苦手だと判明し、今後は個人旅行にしようとういーンヶ所で滞在する旅を企画し、ホテルも夫がYouTubeで見つけたモーツァルトも宿泊したという、多分昔は旅籠!?!みたいな小さなホテルをBooking.comで予約し、エアチケットもANA直行便で自分達で予約完了!!その1か月後にコロナ騒動が起きました。ロックダウンでエアチケットはキャンセル。でもホテルはキャンセル不可での格安予約だった為、ホテルにお願いして日延べ。結果として延長に延長を重ねる事となりました。そしてついには2022年!!オリンピック、吊問外交?を画策する政府の方針で門戸開放。ヨーロッパはすでにノーマスクの世界でした。PCR検査も無い状態でこれ以上厚かましく延長を願い出ても断られそうで、悩んだ結果、夫と私、そして妹の3老人は欲と2人連れで敢行を決意。

そこに立ち上がったのが燃料費高騰によるエアチケット代。ロシアによる戦争で跳ね上がったとんでもない価格の上に、当然ながらロシア上空を避ける必要からか直行便はありません。エミレーツ航空の低価格と評判に引かれて、南回りで中東ドバイ経由の旅とあいになりました。

飛行機はガラガラかと思いきや超満員でした。でも肉嫌いの私はビーガン料理を選び、成功でした。しかしながら、飛行時間の長さは想像を絶するものでした。直行便なら14~5時間ですが、成田からドバイが12時間以上、トランジットは3時間強、ウイーンまでが6時間。ヨレヨレです。途中思いがけない出発ゲートの変更があったりして、何事も慎重な夫がいなかったら大変でした。後で聞いたのですが、ゲートの直前変更はあるそうで、弟はアムステルダムとニューヨークでゲートの直前変更があり、乗り遅れそうになり空港内を走ったそうです!!未だに信じられないような本当の話です。

ドバイ空港は砂漠の中にあるアラブ首長国連邦にある広大な空港。乗り換えゲートに行くのも大変でした。ひたすら歩き続けて、エレベーターと電車を乗り継いだ果てにありました。三時間のトランジットは酷いと思っていましたが、この広さで迷子になる可能性を考えると、そして直前変更を考えると、必要な時間なのかとも思えます。

ウイーン到着後は、初めてのウイーンだった妹の為にまずシェーンブルン宮殿へ。周りはノーマスクですが、我々はいつも医療用のゴツイマスクです。入場数規制があり、待ち時間には、受付の中年女性のおすすめで馬車博物館を見ました。豪華絢爛のパレード用長い長い馬車、子供用馬車、そして葬儀の黒い馬車。見応えのあるものでした。

帰りにベルヴェデーレ宮殿でクリムトを見ました。圧巻でした。一昔前なら、この中にナチスが掠奪した絵画、「黄金のアデーレ」もあったのだなと考えながらの、いかに奪還したかの同名映画を思い出しながらの、鑑賞でした。黄金のアデーレは現在ニューヨークの高級化粧品会社エスティローダー社の経営者一族の個人経営ギャラリーで展示されているそうです。一族もユダヤ人で、展示されてい

る絵画は全て、ナチスによる掠奪絵画を個人的に買い戻した作品群だそうです。

ベルベデーレ宮殿はフランス人軍人オイゲン公が跡取りを残さず亡くなられた後、ハプスブルク帝国に譲られ、素晴らしい美術館になっています。上宮から下宮へ広い庭を歩いて外に出たのは良いのですが、道に迷い、Google MAPのおかげで無事にホテルへ帰れました。ウイーン通を自認する夫ですら、暗い夜での道探しはいささか心細かったそうです。私は!?!無責任体質ゆえ、寒かっただけで平気でした。

アルベルティーナ美術館では思いもかけずバスキア特別展!!以前、六本木の森美術館に来た時、私は一人で見に行きました。初めて見たグラフィティ、落書きのような絵画の価値は分かりませんでした。そして好きな絵とも言えないのですが、心がざらつくようなインパクトのある絵画展で強く印象に残りました。その2日後に見た印象派展ではなんらの感動を覚えなかった程で、自分でも複雑な思いです。その話を夫にしていたせいでしょうか?夫が見ようと言い出して3人で見てきました。夫と妹は最初はビックリしたと思いますが、好きな絵があったそうです。日本展の出品作品とは違いましたが、私も行って良かったです。大満足でした。そのあと常設展で印象派を見ました。これも良かったです。エゴンシーレも普通っぽい絵を描いていた時代があったのだと知りました。

自然史博物館では石のコレクションに圧倒され、宝石に興味のない夫ですら巨大なダイヤモンド原石に見惚れていました。私はエメラルドの美しさに吸い込まれる思いでした。ハプスブルク帝国の素晴らしいコレクションでした。

美術史美術館ではブリューゲルとルーベンス、フェルメールに再会。世界一美しい美術館のカフェと言われるそうですが、前回ツアーの時から憧れのカフェで美しい天井を眺めながらのお食事は、並んで待った甲斐がありました!!

妹と私はオペラ座のバックステージツアーに参加。高価な席にも座らせてもらい、ガイドさんの説明に聞き入りました。12月にはヨナスカウフマンが来るそうで、羨ましいと思いました。ウイーンでも人気なのですね。一方の夫は完売のトスカを€19の立ち見席で観劇。素晴らしかったそうです。本当はマクベスが見たかったのにと残念そうでした。特にオーケストラが凄く良かったそうです。ウイーンフィルの精鋭による演奏だそうです、さもありません。

ホテルに頼んでミュージカル「レベッカ」を見ました。ミュージカル「エリザベート」のクンツェさんとリーバイさんのコンビによる作品でキャッチーな曲満載。私自身は昔原作の翻訳も読んでいて、映画も見ていたので、正直なところ好きな話ではないのですが、皆とあらすじをシェアし、結構楽しめました。今に至るも、テーマソングにはまった夫はCDを聴きまくり、YouTubeの韓国版が大いに気に入ったようです。

前半張り切りすぎた私は風邪を引き込み🤧お医者さんの往診。膝の抜けたGパンで現れた青年医師は、韓国ドラマでイケメンを見慣れた私が腰を抜かすほどの好青年。親日家で中国嫌い。明るくおしゃべりされる先生で、診察後『「COVID-20」だね』とニコニコして仰ったので、私は19の次の20がウイーンでは流行っているのか!?!と超緊張。(海外ではコロナはCOVID-19と呼びます)『ジョークだよ』と言われてホッとした次第です。『僕のとて普通の風邪』だそうです。処方箋もらい、最後に夫は握手していましたが、私は女性が握手を求めては失礼かしらとハムレットのように悩み、勇気なくてお別れしました。お見送りしてドア閉めた途端に、夫が思いもかけない衝撃的コメント。『記念写真撮りたかった!!』私

も💖🥹世の中には誰もが好感を持つタイプがいらっしゃるのですね💖🥹

一日中、処方箋で薬を出してくれる薬局があるそうで、夜3人で薬局へ。カプセルの抗生物質と喉の薬でトローチみたいな舐めるタイプ。胃が弱いので追加で出してもらったシロップ。咳止め。全部箱で出してくれました。

私が寝ている間、夫も疲れて休息。元気な妹は一人で観光へ。王宮へも、市民公園の音楽家の彫像も見てきました。安全な街として知られるウィーンは英語が通じるので良かったです。それと980円で海外でも無料電話出来る契約をし、海外用データSIMを入れて行ったので心強かったです。

帰国の飛行機もエミレーツでの長旅。成田も人だらけ。マンションに戻って疲労感いっぱい、しばらくして内科へ行きましたら、コロナ陽性でした。私だけです。重症化はしていないのですが、ちょこっと変な感じです。抗生物質も出ず、咳止めだけでしたが、ずっと自粛生活しています。皆の見立てはコロナ後遺症だそうです。クリスマスも姪の誕生日も別々でしたが、31日と今日は4人で集合しました。

健康に気をつけて、貯金して、ウィーンにまた行きたいと夢見ています。

(2023.1.1 記)